

発行：株式会社北海道しんきん情報サービス 〒060-0032 札幌市中央区北2条東7丁目 HBAシステムビル TEL.011-233-1212(代) FAX.011-261-1811



新年のご挨拶

株式会社北海道しんきん情報サービス
代表取締役社長

武田 大二郎



新年あけましておめでとうございます。

令和2年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。弊社の業務運営につきましては、日頃から温かいご支援を賜り衷心より厚く御礼申し上げます。

さて、今年もまた激動の一年を振り返るとともに、新年の抱負を述べるこの年頭ご挨拶ですが、特にここ数年は書き出しが毎年同じようなものになってしまい、それはつまり変化の激しさが年を追うごとに大きくなり、しかも決して明るいニュースが多くない中でのご挨拶となるものですから、例年通りの表現を避けて通ることができません。

これまでどこか余所事のような感覚で捉えていた国情勢や世界的動向は、直接的に我々の身に降りかかる、まさに身近な問題になっており、世界がネット社会によって簡単に繋がるようになった昨今、全ての出来事が対岸の火事ではなくなってきているのだと感じております。このような、地球規模での環境変化の中で、言うまでもなく金融業界も今、大きな事業環境の変化に直面しております。長期化する金融緩和政策によって経営環境は厳しさを増し、さらに業界を超えた情報・金融システムの発展によって金融商品の販売による手数料収入の流れ等も変わりつつあります。

このように、Fintechが金融を再定義し、新たな金融サービスの提供が大変な勢いで押し寄せている中で、これまで金融機関として当たり前の存在価値の中で仕事をしてきた時代は、完全に姿形を変えたと言えるでしょう。

この大きな環境変化に対して、信用金庫も事業モデルや経営体質を見直さざるを得なくなり、活発な変革を余儀なくされていると思います。変化の波は、もう止めるることはできな

いでしょう。しかし、この変化によってこれまでにない新たな金融サービスを生み出し、この変化の中でこそその信用金庫ならではの存在意義を發揮し、地域における金融インフラの中心的存在として、地域に根差した金融サービスの提供を通じて地域経済に貢献しなければならないと思うのです。

私が言うまでもなく、信用金庫は地元の企業や住民にとって、無くてはならない存在であり続けなければならず、直面する厳しい経営課題に打ち勝ついかなければなりません。その一助となるべく、弊社もこれら諸問題を常に念頭に置き、業界における自分達の役割をしっかりと認識して、信用金庫に少しでもお役に立つよう、より一層の業務の効率化やコストダウンに繋がるサービス提供に努めて参る所存でございます。

昨年は、弊社も大きく体制が変わりました。増田会長(帯広信用金庫)の決断により、これまでの長い歴史の中で、最大の変化を迎えたと言っても過言ではないと思います。我々は、その期待に必ず応えなければなりません。新たな年は、これまで以上に非常勤役員の皆様、そしていつも弊社を強力にバックアップしてくださる各メーカー、関係各所の皆様の後ろ盾をいただきながら、迫りくる諸問題に立ち向かっていこうと思っております。

どうか一層のご支援ご鞭撻を賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。

結びになりますが、令和最初に迎える新年が、皆様にとりまして更なる飛躍、発展の年となりますよう心からご祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

株式会社北海道しんきん情報サービス
システム検討委員会 委員長

田原 栄輝 (道南うみ街信用金庫 専務理事)



新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては恙なく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

新春を迎える、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、システム検討委員会の運営にあたり格別のご高配を賜り厚く御礼を申し上げます。また、昨年の自然災害により甚大な被害に遭われた方々に対しまして、心よりお見舞い申し上げます。

さて、昨年来ビッグデータビジネスとデジタライゼーションの話題で喧しい中、金融業界も「直接」・「間接」以外の型の金融、アンバンドリング化が様々な形で取り上げられております。

長短金利差消滅の常態化に加え、国策としてのキャッシュレス決済の推進や送金業務の規制緩和等、数多の報道等より知らされる情報からは、愈々以て過去の延長線上に未来がないことを認めざるを得ない状況にありながら、一方で、たくさんのお取引先が自らビッグデータを収集・駆使してビジネスを開拓したり、私の生活圏がスマホなしでは買い物さえ出来ない街になっている姿が想像出来ず、近い将来に来るであろうと言われている世界と、現状の経済活動とのギャップを埋められずであります。

構造変化の端境期は、変わり始めるとあつという間であることは経験則で認識しているつもりではありますが、誤解をおそれず書かせていただければ、私には喧伝されている世界が遍く地方に行き渡り、それらに対応出来ない企業等が淘汰されていくような世界を想像することが出来ません。

上位業態による、そんな来るべく世界を前提とした実店舗の縮小や、AI審査の導入、チャットボット等による効率化が進む程、我々の「地域密着の絶対性」「取引先に関する情報集積と親密性」「個別対応に徹するきめ細かな支援」「信金業界間のマッチング力」の優位性は、高まるることはあっても劣後する心配は皆無と考えます。

当然のことながら、人口減少に伴う経済収縮問題対応や、デジタライゼーションの流れが止まることはなく、私も今年の忘年会費の割り勘はSNSで行っているかもしれませんし、金庫自体の効率化と生産性の向上に資するための取組みはマストであり、また、「Grow with Google」を必要とするようなお客様へのデジタル支援のためのスキル向上も言うまでもありませんが、有識者と言われている人達の語る未来を盲信して悲観することなく、この変革期に金融を職業としていることを意気とし、革新の荒波に飲み込まれることなく、しっかりとお客様に向かって軽やかに乗りこなしたいと考えております。

システム検討委員会は、信用金庫業界のあるべきデジタル・トランスフォーメーションの姿についても意見交換が出来る場になればと考えておりますので、本年も委員会活動へのご支援、並びにご指導ご鞭撻の程宜しくお願ひ致します。

結びに、新しい年が道内信用金庫並びに役職員にとりまして輝かしい一年となりますことをご祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。





新年のご挨拶

株式会社北海道しんきん情報サービス
システム検討委員会 副委員長

橋野 聖一 (稚内信用金庫 常勤理事)
(しんきん共同センター 事業運営委員会 委員)



新年あけましておめでとうございます。謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年は、台風15号、19号が猛威を振るい多くの方が被災され、各地に甚大な被害をもたらしました。

ここ数年は数十年に一度と言われる規模での自然災害が発生しております。気候変動の原因についての議論はさまざまですが、海水温の上昇等は紛れもない事実であり、気候が不安定化し、今まで経験したことのない規模での自然災害が発生しているようです。

災害が予想される場合には、まず命を守ることであります、その後に重要な社会インフラである金融システムをいかにいち早く復旧することが、私たち地域金融機関の使命であり、日頃からBCPの意識を高めておく必要があります。

さて、しんきん共同センターの委員といたしましては、引き続き「事業運営委員会」に出席しております。

事業運営委員会は、理事長の諮問機関として、経営会議による事業運営に係る審議・決議を補佐することを目的としています。

審議するのは、①事業計画(中期経営計画を含む)、予算等に関する事項②開発・更改方針および共通システム開発投資枠等に関する事項③投資額が2億円を超えるシステム案件に対する妥当性、適正性に関する事項となっています。

また、一昨年開催された「次期システム検討ワーキング会議」では、令和8年度に更改するオンラインシステムの方向性を取り纏めましたが、この方向性について業務的な要件を取り纏める「次期システム検討会議」が昨年

新たに発足しており、引き続き委員として参加いたしております。

ワーキング会議と同様に全国11の地区から選定された委員により「自由度の拡大」、「スピード感」、「コストの低減」、「セキュリティの確保」をコンセプトとし、勘定系システム、業務系・情報系システム、内部API等についての要件を議論して参ります。

勘定系のスリム化と内部APIにより先進的な金庫が他行との競争のための新規サービスを開発する場合においては、全体での意思決定を待たずに独自に対応することが可能となります。新しいサービスに対し保守的な金庫は、自金庫が使用しないシステムに対して費用を負担する必要がありません。(制度変更対応は、従前通り全金庫対応)

ただ、単独の金庫でシステム対応ができない場合は、北海道しんきん情報サービスに対応して頂く必要があります。また、その全てをHSISが対応するのではなく、全国の地域情報会社のネットワークを利用し、低コストで早くシステム提供できる体制の構築をお願いいたします。

今年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、マラソン・競歩については、札幌での開催となります。日本国中に活気があふれることを祈念いたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。



■ 第1回 出資管理システムユーザー会を開催 ■



去る11月21日(木)に稚内信用金庫札幌支店会議室において、8金庫11名の実務ご担当者の方にお集まりいただき、「第1回出資管理システムユーザー会」を開催いたしました。

出資管理システムは、不達郵便物管理機能をはじめ、証券履歴・未払配当金履歴等の管理機能、更にTM端末より除名対象者情報を一括登録するリエンタ機能も実装しており、金庫事務負担の軽減に資するシステムであります。

2018年4月よりサービスを開始し、現在6金庫に導入いただいており、導入をご検討されている金庫

や開発ベンダーも交え、更なる機能追加要望の他、日常業務で気になる点や他金庫の事務手続き、ならびに運用事例を踏まえた情報交換を行いました。

今後に於きましても、システム面の品質向上だけではなく、金庫間の事務運用面における意見交換の場として、本ユーザー会を活用して頂きたく存じます。

議題

① システム使用方法のご説明について

長期所在不明会員の除名方法について説明を行った。

② 機能改修のご説明について

CSV出力項目の追加や文字入力数の拡大等、機能改修した旨説明を行った。

③ 事前アンケートに伴うご要望について

10項目に亘る機能要望を頂戴し、開発要否に向けてご検討いただいた。2020年3月に機能提供を予定している。

④ 事前アンケートに伴う情報交換について

返戻された配当金通知書の管理方法や来年度に総代会へかける除名対象者等、システム以外の事務運用等の情報交換を行った。

本システムに興味をお持ちの金庫様は企画・営業推進グループ宛までお気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ

☎ 011-221-2210

発行：株式会社北海道しんきん情報サービス

〒060-0032 札幌市中央区北2条東7丁目 HBAシステムビル TEL.011-233-1212(代) FAX.011-261-1811